

峡南広域行政組合消防庁舎等整備事業
に係る基本協定書（案）

令和5年6月12日

峡南広域行政組合

目次

| | |
|-------------------------------|---|
| 前文..... | 1 |
| 第1条（目的及び解釈）..... | 2 |
| 第2条（本事業関連契約の締結・締結に向けた協議）..... | 2 |
| 第3条（当事者の義務等）..... | 2 |
| 第4条（本事業関連契約不調時の取扱）..... | 2 |
| 第5条（協定の有効期限）..... | 3 |
| 第6条（権利譲渡等の禁止）..... | 3 |
| 第7条（準備行為）..... | 3 |
| 第8条（守秘義務）..... | 3 |
| 第9条（協定の変更）..... | 3 |
| 第10条（協議）..... | 3 |
| 第11条（準拠法及び裁判管轄）..... | 3 |

※複数の企業が各業務を共同又は分担して実施する場合には、「乙」「丙」「丁」などの記載を適宜調整する。

峡南広域行政組合消防庁舎等整備事業（峡南広域行政組合が令和5年5月8日に公表した「峡南広域行政組合消防庁舎等整備事業プロポーザル募集要項」に基づき、事業者の公募を実施した峡南広域行政組合消防庁舎等整備事業をいい、以下「本事業」という。）に関して、発注者である峡南広域行政組合（以下「甲」という。）は、代表企業かつ〔 〕企業である〔【企業名を記載】〕（以下「【「乙」「丙」「丁」「戊」・・・のいずれかを記載】」という。）、設計企業である〔【企業名を記載】〕（以下「乙」という。）、建設企業である〔【企業名を記載】〕（以下「丙」という。）、工事監理企業である〔【企業名を記載】〕（以下「丁」という。）から構成される〔【本事業の代表企業の名称を記載】〕グループ（以下「事業者グループ」という。また、「乙」、「丙」、「丁」、「戊」を個別又は総称して「構成員」という。）との間で、次のとおり基本協定書（以下「本協定」という。）を締結する。

前文

甲は、山梨県西八代郡市川三郷町下大鳥居字原沢地内に所在する土地に、（仮称）峡南広域行政組合消防庁舎等施設の整備等を行う本事業を実施することとした。

甲は、公募型プロポーザルにより事業者の公募を実施し、事業者の選定手続きにおいて、事業者グループを優先交渉権者として決定した。

甲及び事業者グループはかかる経緯のもと、次の(1)及び(2)の本事業に係る契約（以下(1)及び(2)の契約を個別又は総称して「本事業関連契約」という。）の締結に向け、相互の協力に努めるものとする。

- (1) 甲及び〔事業者グループ（乙、丙、丁及び（戊）で構成される本事業における施設整備業務（「峡南広域行政組合消防庁舎等整備事業プロポーザル募集要項」等（当該募集要項に付随して示された資料及び当該募集要項・資料に関する質問に対する回答として公表された回答結果を含み、以下「募集要項等」という。）に定める設計業務、建設業務及び工事監理業務を総称したものをいい、以下「施設整備業務」という。）を実施するグループをいい、以下「施設整備グループ」という。）が締結する「峡南広域行政組合消防庁舎等整備事業に係る設計施工一括契約書」（以下「施設整備契約書」という。）

(目的及び解釈)

第1条 本協定は、事業者グループが本事業における優先交渉権者として決定されたことを確認するとともに、甲及び事業者グループの本事業関連契約締結に向けた双方の協力義務等を定めることを目的とする。

2 本協定において別段の定めなく使用された用語が、文脈上別異に解すべき場合を除き、募集要項等や提案書類（本事業の公募型プロポーザル実施にあたって事業者グループから提出された提案書類、ヒアリング審査の内容、ヒアリング審査前の提案内容に係る甲からの質問に対する回答結果及び本協定締結までに事業者グループが甲に提出した提案内容を補完する趣旨の一切の書類をいい、以下「提案書類」という。）との間に矛盾又は齟齬がある場合には、本協定、募集要項等、提案書類の順にその解釈が優先する。

(本事業契約の締結に向けた協議)

第2条 甲及び事業者グループは、募集要項等、提案書類の内容に基づき、双方で協議を実施し、協議が成立した後に、甲は事業者グループと本事業契約を締結する。

2 甲及び事業者グループは、令和5年9月を目途として設計施工一括契約を締結できるよう最大限努力するものとする。

(当事者の義務等)

第3条 甲及び事業者グループは、前条に定める目的の達成に向け、互いに協力し、誠実に対応するものとする。

2 甲及び事業者グループは、募集要項等の内容を遵守するとともに、「峡南広域行政組合消防庁舎等整備事業選定委員会」から付された意見を尊重するものとする。

3 甲は、事業者グループの優先交渉権者としての地位を尊重し、提案書類の内容に沿った本事業設計施工一括契約の締結をするよう努力するものとする。

4 事業者グループは、本事業設計施工一括契約の締結に向けた協議において、甲の要望を尊重するものとする。

5 事業者グループの代表企業及び構成員は、構成員が本事業から離脱した場合、他の代表企業及び他の構成員は、この離脱にかかわらず本事業を継続して実施する責任を負うものとする。

6 [【代表企業の名称を記載】]は、事業者グループの代表企業として、全ての本事業関連契約の締結に関して、甲との調整・協議等における窓口役を担うほか、事業者グループの調整等の責任を負うものとする。

(本事業契約不調時等の取扱)

第4条 甲又は事業者グループは、次の各号に掲げる事由に該当する場合には、本協定を解除できるものとする。

(1) 甲又は事業者グループのいずれの責めにも帰さない社会経済情勢の変化、天災地変、その他やむを得ない事情により、本事業の遂行が困難であることを甲及び事業者グループの双方が合意した場合

(2) 甲又は事業者グループのいずれかが、本協定に違反した相手方に対して、相当期間の是正期間を設けて当該違反の是正を請求したにもかかわらず、当該期間内に当該違反が是正されない場合

2 甲は、事業者グループ及び構成員のいずれかが、本事業の公募型プロポーザルの応募にあたって募集要項等の定め違反したことが明らかになったとき、本協定の解除や、本事業契約を締結しないことができるものとする。

3 甲は、事業者グループ及び構成員のいずれかが募集要項等に定める本事業の公募型プロポーザルの応募資格を満たさなくなった場合、本協定の解除や、本事業契約を締結しないことができるものとする。甲が認めた場合にはこの限りではない。

4 前3項の規定に基づき本協定が解除された場合又本事業契約が締結に至らない場合は、甲及び事業者グループが本協定の解除等の時点までに本協定に関して支出した費用は各自の負担とし、相互に債権債務関係が生じないものとする。

(協定の有効期限)

第5条 本協定の有効期限は、本協定締結の日から全ての本事業契約の締結が完了し、かつ、契約が有効になる日、又は施設整備業務が完了する日のいずれか遅い日までとする。ただし、本協定の有効期限の終了後も、第4条、第8条及び第11条の規定の効力は存続するものとする。

(権利譲渡等の禁止)

第6条 事業者グループは、本協定に関連して生じる権利義務を第三者に譲渡し、若しくは引き受けさせ又は担保に供することができないものとする。

2 前項の規定にかかわらず、事前に書面による甲の承諾を得た場合は、この限りでない。

(準備行為)

第7条 事業者グループは、本協定の締結後、各本事業契約の締結前であっても、自らの費用において、本事業の実施に関して必要な準備行為を行うことができるものとし、甲は、必要かつ可能な範囲で事業者に協力するものとする。

2 前項の準備行為の結果は、甲の承諾を得た上で、施設整備グループ、乙、丙、丁、戊が速やかにこれを引き継ぐものとする。

(守秘義務)

第8条 甲及び事業者グループは、本事業により知り得た相手方の機密情報及び関係権利者の個人情報について、相手方の事前の承諾を得ることなく第三者に開示し又は本協定の目的以外に使用できないものとする。ただし、権限ある官公署の命令に従う場合、又は峡南広域行政組合情報公開条例等に基づき開示する場合はこの限りでない。

(協定の変更)

第9条 本協定の規定は、甲及び事業者グループの書面による合意がなければ、変更することはできないものとする。

(協議)

第10条 本協定に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、その都度、甲及び事業者グループが誠実に協議して定めるものとする。

(準拠法及び裁判管轄)

第11条 本協定は、日本国の法令及び市の定める条例に従い解釈されるものとし、本契約に関する一切の紛争については、甲府地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とする。

以上を証するため、本協定書2通を作成し、当事者記名押印の上、甲及び事業者グループの代表企業としての[]が各1通を保有する。

令和5年[]月[]日

甲 山梨県西八代郡市川三郷町岩間495番地
峡南広域行政組合
代表理事 望月 幹也 印

乙 (所在地)
(商号又は名称)
(代表者氏名) 印

丙 (所在地)
(商号又は名称)
(代表者氏名) 印

丁 (所在地)
(商号又は名称)
(代表者氏名) 印

戊 (所在地)
(商号又は名称)
(代表者氏名) 印